

【0004・水俣病熊本放送映像資料】

資料群概要

作成主体：熊本放送（RKK）

資料群名称：水俣病熊本放送映像資料

年代：1969年－2009年

要約：

水俣病熊本放送映像資料（以下、本資料と略記）は、1969年から2009年までに熊本放送（RKK）が制作した水俣病に関するドキュメンタリー番組、ドラマ、計12本の映像からなる。熊本放送からDVDにデジタル化して提供を受けた。

総量：DVD12枚（ただし提供を受けたDVDを保存、視聴用に複製したもの）

受入番号：0004

言語：日本語

資料群の管理と利用に関する情報

出所：

本資料は1969年から2009年に熊本放送で制作した水俣病に関連するドキュメンタリー番組、およびドラマである。12本のうち10本は本資料の寄贈担当者である村上雅通氏がディレクターまたはプロデューサーとして制作に関わったものである。

他機関所蔵情報：本資料のマスターテープは熊本放送に所蔵されている。また6ファイルについては横浜市にある放送ライブラリーに所蔵され、視聴が可能である。

放送ライブラリーホームページ <http://www.bpcj.or.jp/>

関連する資料群：なし

利用の形態：

デジタルコピー（DVD）での視聴を基本とする。

整理方法についての情報：

本資料は1媒体に1番組のみが収録されていたため、1番組を1ファイル、1アイテムとし、目録入力を行った。またすべての映像をデジタル化と公開のためのDVD化を行った。

引用する場合の表記方法：

水俣病熊本放送映像資料、受入番号 0004、各ファイル番号、各アイテム番号、法政大学大原社会問題研究所環境アーカイブズ所蔵

利用制限：

著作権保護の観点から、利用目的は報道・批評・研究および教育利用とし、原則環境アーカイブズの視聴覚ブース内での視聴か、学内での授業利用のみとする。

作成者の権利について：

所有権は、法政大学大原社会問題研究所環境アーカイブズにあり、著作権は個々の資料による。

作成主体についての情報

熊本放送は、熊本県熊本市にある放送局である。1953年にラジオ熊本（RKK）として放送を開始。1959年には熊本県初の民放局としてテレビ放送を開始した。1961年に社名を株式会社熊本放送に変更。1967年に東京放送（TBS）とテレビネットワーク業務協定を締結した。熊本放送は水俣病に関して開局当初から取材・報道を行っているが、本格的なドキュメンタリー番組の制作は1969年の『111 奇病 15年のいま』（ファイル番号 0001）が初めてであり、その後も1990年代後半以降に寄贈担当者である村上雅通氏による一連の作品が制作されるまで、ほとんどなされていなかった。

参考資料

藤田真文（2007）「ニュース報道における『水俣』の表象」小林直毅編『「水俣」の言説と表象』藤原書店

熊本放送（1994）『熊本放送 40年史』熊本放送

ウェブサイト

熊本放送ホームページ <http://rkk.jp/>

資料群の内容

水俣病の背景や現状、問題点などについて取り上げた本資料は、水俣病に関わる市民、行政、医療、マスコミの対応の歴史と現状について、詳しく知ることができる。

また本資料の多くが放送関連の様々な賞を受賞しており、テレビドキュメンタリー史を振り返る上でも重要な資料となっている。

○ 各資料の概要

- 「111—奇病 15年のいま—」（0001）：1969年。55分。熊本放送で作られた初の本格的ドキュメンタリー。1968年の水俣病公害認定を受け制作。昭和43年

度日本民間放送連盟賞金賞受賞。

- 「0.00α (アルファ) —第三水俣病—」(0002) : 1973 年。58 分。有明海沿岸で第三の水俣病発生の可能性が取りざたされたことから、これまでの水俣病の経緯と現状も含めてその可能性を検証した。
- 「市民たちの水俣病」(0003) : 1996 年。47 分。患者ではない一般の市民がどう水俣病に向き合ったのか、市民や患者のインタビューから振り返った。平成 8 年度第 4 回「電撃黒潮隊」年間作品コンクール大賞受賞。
- 「アートネイチャーSP 水俣市制 50 周年特別番組 春、陽だまりの町」(0004) : 1999 年。47 分。実際の患者や市民が多く出演するドラマ。
- 「第 14 回民教協スペシャル 記者たちの水俣病」(0005) : 2000 年。46 分。記者たちは水俣病をどのような認識でどのように取り上げてきたのか、記者や患者のインタビューから振り返った。平成 12 年度日本民間放送連盟賞テレビ報道部門最優秀賞受賞、平成 12 年度芸術選奨文部科学大臣新人賞ほか。
- 「いまだ決着せず—水俣病最後の裁判」(0006) : 2000 年。25 分。水俣病関西訴訟の患者や支援者にインタビューし、1995 年の政治決着以降も終わらない水俣病をめぐる訴えを追った。
- 「水俣病 空白の病像」(0007) : 2002 年。88 分。水俣病の医学的研究の空白とその背景について、医師の原田正純氏のインタビューを中心に追った。平成 14 年度文化庁芸術祭テレビ部門優秀賞受賞、平成 14 年度 2003 年地方の時代賞優秀賞受賞ほか。
- 「ムーブ 2004 苦海に咲いた花 —MINAMATA 発 能「不知火」—」(0008) : 2004 年。28 分。2004 年に水俣で行われた石牟礼道子原作の能「不知火」の公演を中心に、水俣の現状を追った。
- 「ムーブ 2005 2 種類の水銀値—水俣病公式確認 50 年目の報告—」(0009) : 2005 年。28 分。国立水俣病総合研究センターが公表した水銀の測定値が、国の測定と異なる高い値を示したことを巡る、水銀値測定の異なる方法に関する報告。
- 「国の病としての水俣病」(0010) : 2006 年。54 分。水俣病の発生から現在に至るまでの行政責任について、支援者である元アナウンサーの宮澤信雄氏のインタビューを中心に追った。
- 「ムーブ 2006 水俣 のさりの海」(0011) : 2006 年。26 分。漁師である水俣病患者夫妻の半生について、二人のインタビューを中心に追った。
- 「ムーブ 水俣病 2 度目の幕引きへ—加害者救済法成立—」(0012) : 2009 年。24 分。2009 年に成立した水俣病特別措置法を巡って、チッソ分社化と行政による水俣病問題の幕引きに反対する水俣病被害者の半生を振り返りつつ検証した。

資料群概要作成担当者 西田善行 (RA)